

犬山市観光戦略についてのご意見の内容と市の考え方

計画名	犬山市観光戦略(案)
募集期間	令和4年2月7日(月)～令和4年2月28日(月)
公開場所	市ホームページ、市役所1階ロビー、観光課(市役所本庁舎3階)、各出張所、市立図書館
意見数	41件(提出人数は9名)

※ 提出された意見は原文のまま掲載しております。各項目における下段は市の回答です。

○いただいた意見・提案 <1>

先日旅行先(指宿)のホテルのロビーでおもしろい発見をしました。佐賀県武雄市の修学旅行生の残した手作りの武雄市の宣伝観光写真です。彼らは修学旅行へ行くにあたって、自分たちの街にも来て欲しいというメッセージをホテルの関係者に頼みました。そのホテルを訪れる宿泊客の目の付く場所に自分たちの住むまちの良いところや観光資源の写真を事前に用意して修学旅行に出かけたんです。タンポポの綿毛のように小さなタネが蒔かれました。効果については検証することができませんが少なくとも私の心に武雄市の子供たちの郷土を愛する気持ちは伝わりました。(写真提供あり)

非常に参考になる取組みをご紹介いただきありがとうございます。犬山市観光戦略の3つの基本理念のうち「③犬山人のおもてなしに出会える(ホスピタリティ)」(P40)では、市民の皆さんがふるさと犬山に誇りと愛着を持っていただけるよう、観光分野でも市民の皆さんが犬山の情報発信を進めていただけるような仕組みを研究していきます。また、基本理念では合わせて、小・中・高・大学生など、若者が観光まちづくりに参画できるような取組みを進めることとしておりますので、提供いただいた情報も今後の参考とさせていただきます。

○いただいた意見・提案 <2>

犬山は、成田山でも駅前でも夏に盆踊りをやっておりました。針綱神社の前で皆で踊れる盆踊りを再開してみてもどうでしょう。舞踏祭は有りますが観るだけでつまらない。犬山音頭もうあるので各幼稚園、老人会でも練習していただければ人数も出るのでは？郡上踊りとまではいかないけど新しい観光になるのでは。

かつては夏になると市内各所で盆踊りが行われていました。実施主体は町内会など地域での取組みであったかと思いますが、現在は様々なご事情で実施されなくなっているようです。寂しさを感じる一方で、開催の担い手不足、踊り手の減少など様々な理由があるかと想像します。こうした中、今の時代のニーズにあった催しとして、ご指摘にある踊芸祭など新たな催しも生まれています。現時点では市主催でのそうした事業の予定はありませんが、戦略P64「クロスオーバー資源開発」で「犬山市の自然、歴史、文化、スポーツなどの豊富な観光資源を活かし、市民をはじめ多様な主体の参画や、異分野の連携により、犬山ならではの観光が楽しめるコンテンツ造成、体験メニューの開発を推進します」としており、ご提案のような見るだけでなく一緒に参加できる催事も含め様々な観光コンテンツが生まれるよう支援を進めてまいります。ご提案ありがとうございました。

○いただいた意見・提案 <3>

城下町や明治村に犬山焼の陶芸や、レザークラフトなどや犬山の里山から伐採した木材のワークショップをシルバー人材センターやボランティアの方々に運営してはどうですか？
そこで得た収益で、観光保全、環境保護に取り組んでは、

犬山焼は本市の貴重な文化財であり、重要な観光資源です。犬山焼に更に親しんでいただけるような場や店舗を増やす取組みを進めていくべきと考えます。また、里山を活かした観光施策も重要です。

方針別の施策で掲げた「7-4 資源発掘・創造 ブランド形成」(P76)では、今ある資源を大切に磨き上げ、価値を高められるような取組みとプロモーションを実施するとともに、高単価・高付加価値商品や体験メニューの造成を図り、魅力ある観光地を目指していくこととしています。また、「7-6 市民とともにある観光」(P80)では、観光が持続可能で発展するために、「市民に潤いのある仕組みづくり(エリアマネジメント、体験メニュー、観光分野で働く等)」をチャレンジする施策として定め、推進していくこととしています。加えて、P62では「SDGs体験・学習サイト」として豊かな里山を活かした観光施策を記載しております。

それらを推進していく際には、シルバー人材センターやボランティアの方々をはじめ、関係団体等との協働の中で進めていきたいと考えています。

なお、シルバー人材センターとの連携について、現在体験型観光メニューづくりの研究を行っており、今後観光客や市民の皆さんに楽しんでいただくことを目指します。

○いただいた意見・提案 <4>

以前城下町で昔から商売されている方から、観光で賑わっていても、多くは、大手の企業のもので本社他地区だから、あんまり犬山が潤ってこないと嘆いていたのを思い出したので、岐阜市などは高校生などが空き家を利用して、学校単位で出展していると聞いた事があります。若い人達にチャンスを与える事は、犬山市の発展やメディアへの話題提供に効果的な気がします

ご指摘のとおりであり、観光の恩恵が犬山にもたらされる仕組みづくりは非常に重要です。城下町地区は大手企業で本社他地区や犬山以外の方が経営されているお店が多くありますが、犬山本社や犬山在住の方の店舗も増えており、そうした方が増えるような仕組みづくりが必要と考えております。

犬山市観光戦略では、方針別の施策にて『域内循環型の観光産業確立(地産地消)』(P74)を掲げ、宿泊・飲食・購入・体験などで市域内の様々な事業者が関わり、利益を上げる仕組みを構築し、観光産業の域内循環を進めたいと考えています。また、ご意見のように、若い人達にそのような担い手になってもらえる機会の創出を図っていきたくており、P40「基本理念③犬山人のおもてなしに出会える」では「小、中、高、大学生などの若者世代が関わる文化・イベント活動等も観光まちづくりの取組みとして活かします」として若い世代の参画を目指します。

○いただいた意見・提案 <5>

①計画の策定期間について

令和13年までの10年計画となっているが、中間点である5年後の中期見直しや、10年計画を柱とし各前後の5年計画×2計画を策定したほうが良いのではないかと？

犬山市観光戦略は20年先を見据えた10年の計画としています。戦略には3つの基本理念、観光まちづくりの将来像、ターゲット設定、方針別施策などを体系的に定めており、この整理のもと事業を着実に実施していくには概ね10年程度を要すると考えていることから、計画期間を10年としています。

しかしながら観光の状況は時々刻々と変化していきます。当初予測していなかったような事象も起こり得ますので、毎年進捗状況をPDCAサイクルにより把握し時点評価をした上で改善しながら事業実施を行う予定です。またご指摘にもあるとおり、折り返しである中間年度に評価・見直しの機会を設ける予定であり、戦略が形骸化したりその時の状況と乖離したりすることがないように、適切な進行管理となるよう留意し進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <6>

②犬山の名物(食べ物)

現状分析において犬山の食べ物のアンケート調査が記載されていたが、市民としても同じ感覚である。名物を発掘するための施策について検討するべきでは？

ご指摘のとおり、犬山には名物がない、とよく言われます。令和元年のアンケート結果も非常に厳しい結果となっています。名物発掘は長年の課題であり、非常に難しいですが、何とかして発掘し育てていきたいと考えております。

チャレンジする施策では「特産品開発(地域資源活かして全国で売れる特産品を)」(P75)を掲げ、犬山のイメージが全国に浸透する名物の発掘、開発を進めていきたいと考えています。また、現在も田楽、こんにゃく、和菓子、地酒、桃、げんこつなど素晴らしい産物があります。近年は犬山の米でできたバウムクーヘンも評判です。こうした既にある産物の磨き上げもとても重要だと考えています。

○いただいた意見・提案 <7>

③各ゾーンについて

環境ゾーンと自然体験ゾーンの区別が出来ていないと思料する。もともと魅力に欠ける所であり分散で行う事でさらに魅力の低下に繋がっていると感じた。

犬山市観光戦略では観光の魅力を市域全体に広げていくことが重要であると考えております。観光に関わる人を増やし、滞在時間を伸ばし消費を拡大することに資すると考えているからです。このため、市域をゾーニングして、各ゾーンでの特性を伸ばして魅力を高めていきたいと考えています。各ゾーンの設定については、「施策を推進していくゾーンの設定」(P51)に記載したように、環境学習ゾーンは、「緑豊かな空間で自然を楽しみ、学ぶことができるゾーン」として設定しました。自然体験ゾーンは、「木曽川や入鹿池をはじめとした水環境や里山等の自然環境を活かしたアクティビティやアウトドアを楽しめるゾーン」として設定しました。それぞれ設定したゾーンに相応しい施策を展開し、市域全体で魅力を高めていきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <8>

④犬山の来訪者について

成田山の来訪者が多いのは初詣だからと一括りに分析しているが、初詣を除外しても約50万人が訪れている(11ヶ月間)この現状に対する分析がなされていない。

成田山名古屋別院の来訪者数について、初詣を除いた期間についても非常に多くの方々に来ていただき市内でも有数の観光地であると認識しております。令和元年度に実施した調査では、位置情報データで成田山と城下町や成田山とモンキーパークなどを周遊している観光客の方がいることを把握しており、「7-1 滞在・体験型観光」(P66)では観光客が特定のエリアに集中してしまうことを回避するため「観光客が集中する時期、時間、曜日、場所などの分散化・平準化」(P68)に取り組んでいきたいと考えています。成田山名古屋別院への参拝などを目的に本市へ来る方が他の地域も周遊したくなるような施策を展開できるよう取り組んでまいります。

○いただいた意見・提案 <9>

⑤SNSの活用について

わたしは、グーグルマップを活用して観光をしております。当然、自分の軌跡として発信しておりローカルガイドレベル8となりました。極稀にですが投稿したオーナーからお礼の連絡や改善の連絡があるとうれしく感じております。犬山市も投稿していただいた発信者に何か返信のメッセージを送り広く世間に活動常用を広めたほうが良いのではないのでしょうか？

ご提案ありがとうございます。観光戦略の推進を下支えする施策『7-7 データを活用したプロモーションの展開』(P79)において、様々なメディアを活用した情報発信による犬山市の認知度向上を図るため、SNS等の多様な媒体を活用していきたいと考えています。一方、観光客からの情報提供に対する返信について現時点で具体的な仕組みはございませんが、ご意見のとおり情報が拡散され、評価を高めていくためには個人からの情報発信は重要と考えます。こうしたご意見や対話での結びつきの機会を模索してまいります。

○いただいた意見・提案 <10>

⑥キャンプの流行

最近、キャンプが盛んに行われるようになりました。岐阜県揖斐郡池田町にあるキャンプ場はよく整備されトイレもきれいでも無料となっております週末には多くのキャンパーが利用しています。犬山もこのような取り組みをされてはいかがでしょうか？市が管理するキャンプ場であれば、大きな災害が生じた場合、ボランティアの活動拠点としての活用も出来るのではないかと思います。

ご意見のとおり、(P6にも記載しておりますが)コロナ禍においてはアウトドアへの需要の高まりがみられます。こうした背景も踏まえ、犬山市の豊富な自然環境を活かし、栗栖や今井、八曾などを自然体験ゾーンと設定(P52)し、アクティビティサイトやキャンプサイトを充実させていきたいと考えています。特に栗栖地区では広大な芝生広場をさらに拡充するための整備を進めるとともに、さらなる利活用を図ることとしています。しかしながら、現在市が管理するキャンプ場はなく(栗栖園地は管理する地元発展会さんと協議し、芝生広場と位置付けておりキャンプ場ではありません)、また栗栖園地については大雨増水時に水没してしまうため、残念ながら災害時の拠点としては適さない状況です(隣接する野外活動センターも同様です)。

しかしながら、アウトドアのノウハウや取組みを災害時に役立てる、という視点は非常に重要だと考えます。P84で「自然災害・衛生のためのマネジメントの充実」としているように、安心安全な観光地として持続できるよう、ご指摘の視点も留意し取り組んでまいります。

○いただいた意見・提案 <11>

所見

観光戦略(案)を読みました。担当者のご尽力と熱意に敬意を表します。犬山の観光はお城を中心として考えていくのが妥当と思料するものの市全体を占める山林地区の活用についても少し議論するべきではないでしょうか？愛知県の移動手段はまだまだ私有車両が大多数を占めております。城下町では渋滞、駐車場不足が顕著であり、犬山に住んでいる私でさえも、休養日等は中心部に行くことを控えております。折角、41号線の拡充により交通量の増加が見込まれても犬山市内に入った途端、大渋滞ではリピーターが出来ないと考えます。犬山に入る手前から観光の目的別の交通網を整備し分散させたほうが良いのではないかと考えます。また、道の駅などを整備し、犬山から帰る観光客がお金を消費できるようなものがあればいいかと思いました。

以上、つらつらと書きましたが愚痴に近い意見となりましたことをお詫びいたします。

貴重なご意見ありがとうございます。

犬山市は里山環境に恵まれ、豊かな自然は貴重な観光資源と捉えています。活用の仕方は地域住民の方々との意見交換も踏まえ魅力を高めていきたいと考えています。

城下町の渋滞、混雑は市も大きな課題として認識しています。平成29年度に内田観光駐車場を整備、平成30年度には犬山城至近のキャッスルパーキングの自動ゲート化を行うなど取組みを進めてきました。今後、新たな公共駐車場整備の予定はありませんが、近年民間駐車場も増え、城下町全体での受入台数は増加しています。しかしながら、GWをはじめ繁忙期は渋滞・混雑は発生しており、更なる改善が必要と考えています。平成30年度から、個人が所有する空地进行を駐車場として提供するシェアリングエコノミー事業(軒先パーキング)なども開始し、様々な手段で改善を図っています。戦略では『9. 未来に向けて検討すべきこと』(P90)で「④地域に負荷を与えない観光交通システム」として、レンタル・シェアリングサービスや集中パーキングなどの交通問題の改善に向けて検討を行うこととしています。

道の駅については、チャレンジする施策にて「国道41号沿線「道の駅整備」」として記載しており、今後検討を進めます。そうした中で、犬山市を訪れる観光客が買い物や様々な体験をすることで消費が拡大し、地域内経済が循環するよう、方針別施策『7-3 域内循環型の観光産業確立』(P74)を目指し、施策を推進していきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <12>

①P51 4-7 将来構想図について
・栗栖のあたり『自然体験ゾーン(アウトドア)』

意見:ジオパークゾーンも追加してはどうか

理由:犬山鵜沼チャート層が素晴らしい。まず、様々な色や形を成す縞模様の美しさに感動を覚える。お城の下にある素掘りトンネル、東之宮古墳に上がっていく道の法面などもそうだが、チャートが生み出す縞模様はSNSにもよく映える美しさだと思う。そうすると次に、どうしてこのような岩なのか、このような景色ができたのかという疑問が湧く。白、茶、緑、黄、なぜこのような色なのか、いつどこで生まれてここまで来たのか、地球の歴史やパワーを知ることができる絶好の場所。ブラタモリでよく色砂や布、粘土など使って地層の成り立ちを実験しているが、夏休みや冬休みなど、野外活動センターを上手に活用して講座をしたりできないか。常設の展示は費用面を考えると難しいので、犬山市公式YouTube で興味のある方に観てもらおうと良いと思う。現在、栗栖は地元有志の方々が竹林整備してくれており、私たちもよく歩きに行かせてもらっているが、こんなに綺麗で不思議な景色が広がっていて、しかも車を停めてすぐという最高のアクセス現場なのに、ほとんど人がいない。栗栖の渡しについての案内はあるが、チャートについては特に触れられていない。

貴重なご意見ありがとうございます。

名古屋都市圏にありながら豊かな自然を満喫できることは本市の強みであり、観光にも存分に活かすことができると考えております。その一つとして、木曾川及びその周辺に見えるチャート層も本市の貴重な観光資源と捉えています。東之宮古墳のチャートも本当に美しく素晴らしい資源と認識しております。評価していただきありがとうございます。

戦略では「7-4 資源発掘・創造 ブランド形成」(P76)にて、既にある資源を磨き上げ、犬山市の魅力を高める取組みを推進していきたいと考えています。その中で、チャートやその他自然資源を発掘し、学びのツーリズムを企画実施へとつなげていきたいと考えています。令和2年度には、地元大学である名古屋経済大学教授の方々と船からチャートを見て学ぶツアー造成や学生の学びの機会創出について現地視察も含め検討した経緯がございます。現時点では具現化しておりませんが、今後も調査研究をしていきたいと考えております。合わせて、SNSやYou Tubeでの発信も今後検討してまいります。なお、栗栖地区の竹林整備については、市も参画させていただいておりますが、チャート利活用による誘客については栗栖地区地元住民の方の暮らしや考えもお聞きしながら検討してまいります。

○いただいた意見・提案 <13>

①P51 4-7 将来構想図について

・『新池・中島池の環境学習ゾーン(里山学習)』

意見:『里山学習』を『里山土・水・暮らしの環境学習(仮)』にしてはどうか

理由:里山のある多くの地域が「里山学習」と称した体験学習(多くは、地元の高齢者が講師となり少し前の暮らしの体験をしたり、工作、遊び、農作業、自然観察、生物観察をしたりするもの)を行っているので、犬山で行う学習はよそのそういったものとは違う、今の暮らし、これからの暮らしの中で役に立つ、もう一つ深いところを学ぶ場にして欲しい。特にこれからの犬山を作っていくのは若い世代なので、子ども達とその親、環境に配慮したライフスタイルを送りたくて実践的な学びを求めている人向けに、自然を痛めない環境の整え方、水の使い方(使った後の世界も含め)、木の健康、動物との距離感を学び、自分たちの家庭(里山でも街中でも)で実際に生かせるノウハウを身に付けられる場が欲しい。このエリアで一から小さな学習小屋を建て、周辺を整備して場を育てていくようにし、年間レベルでのワークショップ形式(有料)で参加者を募集、参加者は知識とノウハウを学習する。NPO法人地球森の高田宏臣さん、パーマカルチャーリストの四井真治さんのような方が継続的に講師になってもらえるのが一番望ましいと考える。そこから地元の人間が育ち、環境に配慮した暮らし方や考え方ができる人が犬山に多く広く根付いてほしい。また、この意見に関係なく、今後このエリアの環境整備するのならば、今棲んでいる動植物の居場所が狭まったりなくなったりしないように配慮してほしい。

里山は、かつては人々の暮らしと密接に関わり、食料や燃料などの資源を得て自然と共存しながら生活していた大切なものと認識しています。P62の重点プロジェクト「6-5 SDGs体験・学習サイト」では、犬山市の豊富な自然環境をフィールドに、子どもからシニアまで楽しみ、学び遊ぶことができる機会と場を設けることを進めていくこととしています。自然環境を守りながら、次代を担う子ども達が自然に親しみ育てていけるような取組みを進めていきたいと考えています。

また、重点プロジェクトでもチャレンジする施策として「新池・中島池の環境学習サイトの整備」を設定しており、観光を切り口とした環境学習が進むような取組みを進めてまいります。

環境学習ゾーン(里山学習)については現行の名称を使用させていただきますが、ご意見の趣旨を踏まえ、将来構想図の実現や重点プロジェクトなどの取組みを進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <14>

②P 41 (2) 観光まちづくりの将来像

・「犬山らしさ」の<オリジナリティ><ホスピタリティ>について

意見:「唯一犬の字がつく」自治体として「日本一犬に優しい自治体」をめざすことを追加してはどうか

理由:他の自治体には絶対真似のできないものを生かすべきと考える。犬山市は「唯一犬の字がつく自治体」として記念事業などされてきたと思うが、その効果はどのくらいあったのだろう。時々イベントではなく「日本一犬に優しい自治体(犬のウェルフェア向上を目指す)」くらいの振り切り方で、埋もれているターゲット層を掘り起こして、独自の戦略で臨んでほしい。

犬山市の特色を高めるための貴重なアイデアをありがとうございます。

ご意見にもあるとおり、市では平成30年の成年には記念事業として、「動物病院とのコラボイベント開催」や「一日市長犬任命」、「犬の彫刻展見学ツアー」、「成年生まれの人集まれそして犬の人文字を作ろう」など、様々な取組みをさせていただきました。多くのメディアに取り上げていただくこととなり、一定の成果があったものと考えております。こうした期間限定での取組みだけでなく、継続的な「犬」を意識した施策については、ターゲット設定や独自性という面で、今後検討をしていくべきものと考えます。一方で、残念ながら市民の方全てが犬好きではなく、ご理解をいただけない場面も出てまいります。こうしたことも踏まえつつ、いただいたアイデアを参考にさせていただきながら、犬山市を全国的に向けて認知度が向上するような取組みを調査、検討していきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <15>

○観光面では、日本全国にいる愛犬家をターゲットにする。

・ペット関連産業の市場規模は、年々拡大しており、それならば、そのお金を犬山市に落としてもらえたらありがたい。しかしながら、「ペットがいるから」旅行をあきらめる方も多く、また、犬がいると旅行に行けないので飼わない選択をする人も多い。ということは、この層のお金はこれまでどこにも落ちていない、または他の場所へ落ちていることになる。愛犬家は日本全国どこにでもいて、特定の年齢層に偏ることもないため、恒常的に観光ターゲットとしての見込みがある。

・犬山市にある宿泊施設は全て犬も泊まれる部屋(全室でなくて良いので)、脚用シャワーを設ける等の環境を整える。また、城下町はじめ観光施設には犬連れOK、犬用スイーツもある店を増やす。桃太郎キャンプ場の水場は犬用プールに、一部河原も犬がエンジョイできるエリアを設ける等、市内のあちこちで犬連れの観光客が不便なく遊べるよう整備する。

愛犬家をターゲットにすることについては、非常に特徴的なターゲット設定となり、消費拡大の点でも今後検討すべきものと認識しております。このターゲット設定については「4-3対象となる観光客層への対応」(P44)で犬山市民をはじめ、世代・圏域・目的別に対応方針を定めており、「特定の目的がある旅行者」が該当すると考えます。

具体的に「愛犬家」をターゲット設定する場合、愛犬家と犬が苦手な方との共存も考える必要がありますので、まずは宿泊施設やテーマパークなどの施設と連携することが考えられます。その他、様々な主体とのコラボレーションも可能性があると考えます。そうした連携の中で、ペットを連れている方でも犬山市に来て楽しんでいただけることができるように新たなコンテンツを造成について検討していきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <16>

・我々の思いついた犬山市ならではの犬の催し

⑤犬山緑地公園で年一度の『犬山わんこフェス』の開催。参加費は「わんこイン」(500円)。参加賞、限定記念グッズ、物販、飲食(人と犬用)、写真、似顔絵、しつけ教室、アジリティ大会、ドッグラン、譲渡会等、普段人がやっているイベントを犬とその家族のために行う。

⑥『わんPEACE(漫画ONE PEACEとのコラボイベント)』日本が世界に誇る漫画・アニメ文化を使わない手はない。わん丸君がルフィの扮装をし、遊覧船や鵜飼舟をゴーイングメリー号(海賊船)にして鵜飼いはじめ犬山市の名所各所ををエンタメ化。ワ(ん)の国として城下町、お菓子の城でビッグ맘、等。犬山市を広く使って(こうすれば「観光は城下町ばかりだよそごと」ではなくなる)泊りがけで遊びたくなるようにする。幅広い年齢層に注目させ、遊んでもらうことで犬山市の名前を広く認知してもらおう。

「犬」にまつわる様々なアイデアを提供していただき、ありがとうございます。木曾川犬山緑地ではかつて民間団体の方によってドッグランの大会が開催されたことがあります。また全国各地では犬に関するイベントが開催されており、誘客効果が高いと聞いております。犬山市主催でのイベントは現時点で開催の予定はありませんが、民間事業者の方による提案があった場合、趣旨と内容を踏まえた上で、しっかりと応援していきたいと思っております。また、漫画やアニメを活かした観光施策の推進も非常に魅力的です。ONE PEACEとのコラボイベントは夢がありますが、今後そうした機会を捉え検討してまいります。

全国で自治体名に唯一「犬」があることを強みにして、関係各所と連携し、今回のご提案を参考にさせていただきながら、犬山市が幅広い年齢層から認知していただけるような取組みを調査、検討、実施していきたいと考えます。

○いただいた意見・提案 <17>

○犬山市民で犬を飼っている人に対して、お得感を出す

・「日本一犬にやさしい自治体」に住んでいる犬と住人なので、住犬・住民特権がある。

・犬の住民票(犬を登録するときに発行してもらえる紙とカード、)

・常設:住犬サービス(しつけ、飼い主の心得、健康相談、譲渡会)※しつけは大事なもので、気軽に通える教室環境がほしい。犬が苦手な人、公共の場もあるので。市内の動物病院、保護団体と連携する。

・犬割り…市内のお店で犬用品を購入の際、犬の住民カードを見せると市内のお店でサービスが受けられる(ポイントなど)

・わん丸君バスも気軽に乗れて(犬用座席としてケージ状の席があらかじめバスに用意されていたり、ケージがバスにあって乗っている間そこに犬に入ってもらい、等)、広い公園や緑地までバス、公園で遊ぶなどできたら良い。

こちらのご意見につきましても、「犬」にまつわる様々なアイデアを提供していただき、ありがとうございます。ご提案は観光施策にとどまらず、他分野に亘る内容ですので、関係部署とも共有し参考にさせていただきます。観光面では犬を飼っている方にも楽しみ、喜んでいただけるような施策を展開していけるよう検討してまいります。

○いただいた意見・提案 <18>

○市が応援してもらえるようになる

- ・全国に犬山市の行動が認知してもらえたら、ふるさと納税でも犬山市を応援してもらえるようになる。
- ・犬のいる役所…市役所はじめ、市の施設に犬がいて良い(しつけできていない犬と飼い主は不可)。

全国で犬山市の認知度が高まることで、ふるさと納税の寄付額が高まることを期待できます。観光戦略策定時の調査では、関東・関西の本市認知度は約70%にとどまっており、今後更なる知名度及び認知度向上の取組みが必要と考えます。

ご提案の内容は本市の特徴を活かし認知度向上に繋がる可能性があります。現時点では具体的な取組みの予定はありませんので、今後の施策の参考とさせていただきます。なお、ふるさと納税につきましては、「7-3 域内循環型の観光産業確立」において安定的で持続可能な観光行政実現のため、税や利用料など様々な方法での新たな財源獲得を検討していくこととしております。寄付額を今後も伸ばしていきたいと考え積極的な取組みを進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <19>

○その他、普段思っていること

- ・犬山城の麓の森部分になっているところは普段分け入っていくことができないが、恐らく昔の遺構などあるかと思うので、観光シーズン外の時期にガイドツアーなどあるといいと思う。

ご提案ありがとうございます。現時点で、犬山城の麓の森の部分に立ち入ってツアーなどを実施する予定はありませんが歴史文化に関心を持ち、楽しんでいただけるようなコンテンツ造成は観光の多様性の点、そしてご指摘のとおり閑散期に有効な取り組みとなると考えます。

犬山市には「ナイスで犬山」というボランティアガイドの団体さんがいらっしゃいます。コロナ禍で活動が思うようにならない時期もありますが、非常に丁寧なガイドを行っていただき好評です。ナイスで犬山の皆さんとの連携をさらに深め、犬山らしい特徴のあるガイドツアー造成を模索してまいります。

○いただいた意見・提案 <20>

○その他、普段思っていること

- ・川沿いの遊歩道ゾーンは、歩いてみると、歩き出したら止まれないと思った。ベンチが所々にあるが、汚れていて座りたくない。今度整備をし直すとのことで、期待している。現在のように等間隔にベンチがずらっとあるよりはメリハリをつけて、休憩できるゾーンはポイントごとにまとめた方が良く思う。そこにキッチンカーなどが停まってくれたら良い憩いの場になるのでは。また、現状のままの配置であるならば、現在桜の下にあるが、川を眺めるのでより川側へ寄せてはどうか(その場合庇も要るが)。

木曽川河畔内田地区は犬山城と木曽川の眺めが美しく、大変すばらしいロケーションですが、経年により歩道の舗装やベンチなど一部損傷等が見られます。観光戦略では、木曽川河川空間の活性化を重点的な取組みと位置付けております。

P56の重点プロジェクト「6-1 遊園ルネサンス」では、内田地区の河畔空間の高質化を推進し、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、遊歩道の整備を図ることとしています。ご意見を踏まえ、歩いて景色を楽しむことができる場所や休憩できる場所のメリハリをつけた空間の整備を検討していきたいと考えています。遊歩道部分は木曽川河川敷内であり、河川法による制限がありますが実施可能な手法や整備内容を調査研究してまいります。ベンチが川岸に寄ることで、素晴らしい眺めを楽しめそうですので、そうした空間づくりも検討してまいります。

○いただいた意見・提案 <21>

○その他、普段思っていること

・鵜飼いに興味はあるものの、妻はパニック障害で舟に乗る自信がない。妻のようなものだけでなく、身体的な理由、その人の事情で舟に乗ることが難しい場合や、ただふらっと犬山に来て、鵜飼いをしている様子を眺めたい人が、川岸から気軽に眺めていられるような環境があると嬉しい。

木曾川うかいは犬山市が誇る文化財です。1300年前に起源を持つこの伝統漁法を保存継承するため、鵜匠をはじめ関係者一同、日々尽力しています。持続可能な鵜飼事業となるには、市民の皆さんに親しみと愛着、誇りを持っていただくことが重要であると考えており、様々な取組みを進めてまいります。P58では「木曾川うかいの更なる充実」をチャレンジする施策に定めており、さらに魅力ある鵜飼事業を創っていきたいと考えます。またP56の重点プロジェクト「6-1 遊園ルネサンス」における内田地区の河畔空間の整備にあたっては、ご意見を踏まえ木曾川の自然や鵜飼を楽しむことができる空間の整備を視野に入れ検討を進めてまいります。鵜飼観覧は基本的には船に乗っている(有料の)お客様が優先されることにはなりますが、冒頭のとおり市民に愛される鵜飼となるよう、内田地区河畔(特に遊歩道)からも鵜飼を楽しめる場と機会を検討してまいります。

○いただいた意見・提案 <22>

○その他、普段思っていること

・木曾川緑地に、美濃加茂リバーポートパークのように飲食できる場所、屋根付きの広場を作ってほしい。扶桑緑地のように歩きやすい遊歩道がない代わりに、ここに行きたいと思わせる何かがないと平日の寂しさは解消できない。昼休憩の営業さんたちも利用してくれるはず。

観光戦略では、木曾川に注目しており、木曾川河川空間活性化を重点的に進めていくこととしております。P58の重点プロジェクト「6-2 日本ライン再発見ルート」では、施策の展開方針において「木曾川河畔の豊富な資源を活かし、何度も訪れたいくなる、楽しい空間づくりを進めます」としています。鵜飼の充実、遊覧船の拡充、栗栖の自然を活かしたアクティビティサイトの整備と充実など、様々な取組みを進めてまいります。木曾川緑地に関しては国所管の河川敷地で、構造物等の設置は難しいこともあり、現時点では新たな利活用での予定はありませんが木曾川河川空間全体の充実のため、いただいたご提案を関係部局とも情報共有してまいります。

○いただいた意見・提案 <23>

私は動物園ファンとして全国の動物園を訪問する趣味があり、特に霊長類に一番興味を持っているため2～3ヶ月に一度は日本モンキーセンターを訪れるため犬山駅周辺に宿泊滞在します。わざわざそれが目的に行きますので開園時間中には同園を満喫しますが閉園後に犬山城付近に行ってもお店も開いておらず、夕食の選択肢(特に飲酒をしないため居酒屋以外)が大変少ないと感じています。食事なしで宿泊するビジネスホテルも大変多いのでニーズはきっとあると感じます。

夕食を楽しめる飲食店の充実が本市が目指す滞在・宿泊型観光の実現に向けとても重要なことと認識しています。P69の方針別の施策『7-1 滞在・体験型観光』では、犬山駅周辺においてチャレンジする施策「宿泊・飲食・物販の誘致(マッチング)」や「ナイトタイムエコノミーの充実(イベント、飲食店、イルミネーション、ライトアップなど)」を推進し、市民及び観光客に対し、夜間に滞在しても楽しめるコンテンツづくりや飲食店等の充実させ、長く滞在していただけるよう取り組んでいきたいと考えています。特に犬山駅周辺は「駅周辺にぎわいゾーン」に設定しており充実させていきたいと考えております。

○いただいた意見・提案 <24>

日本モンキーセンターは現在SNSで全国的に有名になり私のようにそこを目的にレポートで訪れるファンが急増しています。またオンラインで全国に学びを提供できる講座も発信しており大きな観光資源の要素を持っていると感じています。学びをも観光の要素として大きく展開していくことで犬山市が学術的な発信の場として更に広く全国に知られ多くの人々が訪れる街になって頂ければと感じます。

P82の方針別の施策『7-7 データを活用したプロモーションの展開』では、SNS等の多様な媒体を活用した情報発信により犬山市の認知度向上を図っていくこととしています。いただいたご意見のように、現在、日本モンキーセンターでは非常に魅力的なSNS発信を続けられており、多くのファンを獲得されているようです。犬山観光全体でも、センターさんのようにSNSも含めた様々な手法で全国に向けて犬山市の様々な魅力を発信していきたいと考えます。そうした中で日本モンキーセンターや市内の歴史文化資源など、「学び」を観光の要素として打ち出していくことはとても効果があると考えますので、取組みを進めてまいります。また、戦略では「特定の目的がある旅行者」をターゲット設定させていただいており、そうした方が楽しんでいただけるような「特別な体験コンテンツの提供」を日本モンキーセンターとも協力して進めていきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

○いただいた意見・提案 <25>

犬山駅周辺の飲食店(自営店)が見つげにくいと感じます。16時にモンキーセンターが閉園して、犬山駅付近でご飯を食べてから戻ろうと思っても選択肢が無く、そのまま帰ってきてしまう場合が多いです。混雑した名古屋駅付近には無い、故郷に帰ってきたような気持ちになれる犬山の飲食店、喫茶店「鈴蘭」など地元の人たちが知っている飲食店がより伝われば良いなと思いました。

旅先での食事の充実が観光において非常に重要であり、まちの魅力向上に繋がります。夕食を犬山で召し上がっていただくことで滞在時間を伸ばし、消費拡大となることから、戦略でも推進していく方向性としています。

P69の方針別の施策『7-1 滞在・体験型観光』では、犬山駅周辺においてチャレンジする施策「宿泊・飲食・物販の誘致(マッチング)」を推進し、市民及び観光客に対し、夜間に滞在しても楽しめるコンテンツづくりや飲食店等の充実を図ることとしています。地元の人に愛されているお店などもSNSなどを通じた情報発信や観光マップの掲載内容の強化などを検討実施し、犬山の魅力を高めていきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <26>

岐阜バスの時刻表や犬山遊園駅との違いも、初めて訪れるお客さんには伝わりづらいのでは無いかと思います。イレギュラーな運行状況など、SNSで発信していただけると有難いです。

P82の方針別の施策『7-7 データを活用したプロモーションの展開』では、SNS等の多様な媒体を活用した情報発信により犬山市の認知度向上を図っていくこととしています。観光地の魅力のみならず、観光客が市内で移動する際、リアルタイムの運行状況の情報発信は重要ですが、現時点では実現していません。運用面での課題もありますが今後はSNSも含め、多様なツールを適宜活用した効果的な情報発信を研究してまいります。

○いただいた意見・提案 <27>

ただの動物園に留まらない、日本モンキーセンターの面白い取り組みを、一丸となって盛り上げていただけたら嬉しいです！

日本モンキーセンターは、世界でも珍しいサル類の動物園であり、本市の貴重な観光資源です。P50のチャレンジする施策に「世界でも稀有な施設「日本モンキーセンター」「博物館明治村」のブランド力向上」を設定しています。日本モンキーセンターという貴重な資源を活かして多くの観光客、市民の皆さんに楽しんでいただけるような取り組みを進めたいと考えます。

○いただいた意見・提案 <28>

約6割が買い物をしていないと記載がありましたが、確かにお金の使い所が難しいなと思います。犬山駅横にある売店で「もちたけ」だけではなく、ローレライビール等の若者でももう少し手に取りやすいお土産があると嬉しいです。

P74の方針別の施策『7-3 域内循環型の観光産業確立』では、チャレンジする施策「特産品開発(地域資源活かして全国で売れる特産品を)」「老舗・名店になり得る店舗、名物を増やすための支援・誘致・働きかけ」を推進し、若い世代からシニア世代まで人気を得られるような特産品の開発を図ります。また、販売する場所や機会も拡充する必要があります。駅周辺や城下町でお土産が気軽に購入できるような仕組みを整える必要があります。またオンラインサイトを充実して販売の手法や仕組みに工夫を凝らしていきます。貴重なご意見ありがとうございました。

○いただいた意見・提案 <29>

初めて訪れた、明治村 謎解きイベント(金魚)のクオリティが高くて驚きました！名古屋の観光がワンパターンになってしまうと話す友人も多いので、知ってもらう機会さえあれば、SNSでも話題になりそうだなと思います。

明治村のイベントを評価してくださり、ありがとうございます。明治村をはじめ市内テーマパークでは魅力的な催しを次々と展開されており、本市観光の楽しみ方に多様性をもたらせていただいております。P69の方針別の施策『7-1 滞在・体験型観光』では、チャレンジする施策「テーマパーク名古屋鉄道3園の魅力発信と一泊したくなる仕掛けづくり」を推進することとしています。博物館明治村等テーマパークの企画と連携するなど多様な体験コンテンツを提供を進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <30>

他の観光地には無い魅力として、観光と日常(市民の暮らし)が混在した落ち着いた空間であることが挙げられると思います。犬山市は都民の私にとっても大切な場所になっています！！

犬山市のことを評価してくださり大変嬉しく思います。ありがとうございます。
住民の方の暮らしと観光の調和・共存は観光戦略の重要なテーマです。今後も住む方も訪れる方も楽しみ愛着を持てるまちづくりを市民の皆さまとともに進めていきたいと考えております。ありがとうございました。

○いただいた意見・提案 <31>

観光戦略(案)P2「観光を切り口とした課題の解決」の内容について
本文では「城下町では店舗が増える一方で、居住する人は減り、地域の連携・連帯が失われる懸念が生じています。」とありますが、実態に合わせ「城下町では店舗が増える一方で、居住する人は減り、地域の連携・連帯が失われています。」とすべきです。「懸念」ではありません。

貴重なご意見ありがとうございます。今回策定する犬山市観光戦略では、「観光客、事業者、住民の調和と共存」が重要な課題であり主要なテーマとしています。他自治体の観光計画の中でも特筆して随所にこのことを掲載しており、策定後も進めていくべき課題と考えています。

ご指摘いただいた部分の本文は「城下町では店舗が増える一方で、居住する人は減り、地域の連携・連帯が失われる懸念が生じています」としています。まず前提ですが、最後の「懸念しています」は地域の連携・連帯が失われる」のみにかかっています。よって「城下町の店舗が増える」及び「居住する人は減り」の箇所は事実として把握できる部分ですので、言い切りになります。そしてその後の「地域の連携・連帯が失われています」の箇所について、地域の連携・連帯が完全に失われているかについては、現状としてそうした危機感は大いにあるかと思えます(これは他の地域も同様です)。一方で、この部分に関する見解は、捉える見方によってわかれる部分が多いかと思えます。「失われている(無くしている)」のか「失われる懸念がある(かろうじてつながっている)」のか。戦略では完全に「失われている」という解釈はしていませんのでご理解くださいますよう、お願いいたします。ただし地域の連携・連帯が喪失する危機にあることは(他地区も同様ですが)強く認識しており、念頭におき各施策に取り組んでいくべきと考えております。

○いただいた意見・提案 <32>

観光戦略(案)P3「策定体制」の内容について
本文では「観光まちづくり」を位置づけました。」とありますが、「コロナ感染症拡大により途中で開催が出来なくなった」旨記載を追加すべきでは。

ご指摘の「令和2年度に出来なくなったこと」について、ですが、P2は戦略の「策定体制」を記す箇所ですので、体制の構造(仕組み)、位置づけを記載するページとなり、策定過程の詳細は別途、資料編に記載する予定です(資料編を含めた完成版は4月以降、市ホームページで公開いたします)。ただし策定全体の過程を説明するため、ご指摘の件についてはP2の策定体制の箇所に「令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受けて「犬山市観光戦略会議」をはじめ「観光まちづくり会議」を開催することができなくなったこと、令和2年度は専門部会を開催し、必要な議論を進めたこと、結果として観光戦略の策定は当初の予定から1年伸び、令和3年度末となった」旨を記載します。

なお、観光まちづくり会議(以下「まち会」といいます。)の開催、中断、再開等の過程についてですが、令和元年度には計6回開催し、大変貴重な意見、提言を頂戴することができ、観光戦略に反映させていただきました。参加者の方には大変感謝しております。その後、ご指摘のとおり令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大人数を集めての会議は実施できなくなりました。このため令和3年度には、「観光まちづくり井戸端会議」という形で少人数(1~5名以内を想定)での井戸端会議形式で、城下町住民の方をはじめ、城下町店舗、入鹿池ボート組合、宿泊事業者、など計10回開催させていただき戦略策定に、大いに参考とさせていただきました。一方、このまち会は、策定までのプロセスのみに必要なものではなく、策定後、それぞれの課題に取り組む際の担い手、パートナー、協力者と出会い、共に解決に向け取り組んでいただける方を探す場でもあります(こちらの方にも重点をおいています)。このため、まち会は策定後も、それぞれの課題ごとに関係する方とともに対話する場として設定、開催してまいります。

○いただいた意見・提案 <33>

観光戦略(案)P41「みんなで作る・みんなのための観光(ホスピタリティ)」の内容について本文では「観光分野に関わる市民が増え」としていますが、「地域住民の生活と観光化のバランスをとった上で観光分野に関わる市民が増え」とした方が様々な立場の市民に対して配慮されるのではないのでしょうか。また、SDGsの観点からも望ましいのではないのでしょうか。

ご指摘の内容は重要であり、P41にはそうした内容を言い方を変えて何度も表現し強調しようとする意図がございますが、わかりづらいため、ご指摘の「地域住民の生活と観光のバランスをとる」という点については、P41同項目の2行目以降を「また、こうした取り組みを多くの市民の協働で行うとともに、対話の継続により地域住民の生活と観光との共存・調和などの課題の解決に臨みます」という表現で追記いたします。SDGsの視点についての提言もありがとうございました。持続可能な観光地づくりは非常に重要な視点ですので、留意して進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <34>

観光戦略(案)P47「観光まちづくりプラットフォームの構築」の内容について「観光化による地域住民の生活への影響と対策の推進。」を明記した頂きたい。プラットフォームにこの項目が記載されなければ、片手落ちとなるのではないかと思います。

P47「観光まちづくりプラットフォームの構築」では、「市民、行政、観光協会、商工会議所、大学・教育機関、民間事業者、NPO等の多様な主体が行う観光まちづくり活動が総合力として実効性を発揮するように、各主体の取り組みを協議調整する対話の場」として観光まちづくりプラットフォームを構築していくこととしています。

ご指摘いただいた事項は戦略における3つの課題の一つですので、プラットフォーム構築の際にも当然ながら念頭に進めてまいります。この観光まちづくりプラットフォームで協議調整を図る事項として、「観光地全体の危機管理、衛生管理等のリスクマネジメントや新型コロナウイルス感染症の影響からの回復プログラムの立案実施、そして観光客と事業者、住民生活との共存と調和を図り進めるためにもこうした場と機会を設けます。」と追記いたします。ご指摘ありがとうございました。

○いただいた意見・提案 <35>

観光戦略(案)P60「城下町景観・環境レベルアップ」の内容について「現状と課題」では、「犬山城及び城下町に観光客が集中することにより、ゴミのポイ捨て、道路混雑・渋滞、私有地への立入など、地域住民の生活に影響を及ぼしています。」と記載されていますが、「施策の展望方針」にはこれに対応する記載がありません。記載すべきではないのでしょうか。

ご指摘のとおり、重点プロジェクトのページでは『現状と課題』を受けて『施策の展開方針』を定めておりますが、P60『施策の展開方針』には「城下町地区の美しい景観が損なわれることのないよう、事業者、地域住民など関係者が「まちなみの在り方」や「住民と観光客との調和・共存」について考える機会を設け、景観や良好な生活環境の保全に必要なルール等を整えます。」と記載しております。地域住民の生活に影響を及ぼしている様々な事項への対応については、「住民と観光客との調和・共存」について考える機会を設け、(中略)、必要なルール等を整えます。」の箇所にて記載し表現している、という意図ですので、ご理解くださいますようお願いいたします。

○いただいた意見・提案 <36>

観光戦略(案)P70「取組みの方向性について」の内容について「ストレス軽減のために平準化などの取組みを進めます」としています。観光客は働き方などにより、訪問日を決定する傾向が高いことを考えると駐車場料金に値段の差を設けたとしても目に見えて休日の観光が減るとは考えずらいと思われま。また、本計画にある観光客数の増加と考えあわせれば、平日に観光客を増加させると考えられます。これでは、地域住民の生活に対する支障は増大しストレスも増加することになります。「ストレス軽減策」について一般的実情に配慮して頂き再検討をお願いします。

ご指摘のとおり、多くの方の旅行(外出)日設定については休暇取得の問題が大きく、市の取組みだけではなく、むしろ働き方改革など国策によるところが多いのではと思われま。城下町一極集中を和らげ、市域全体に観光を広げるためにも、犬山観光の目指すべき方向性としては「平準化、分散化」を図ろうとしています。

P69の方針別施策『7-1 滞在・体験型観光』では、チャレンジする施策「観光客が集中する時期、時間、曜日、場所などの分散化・平準化」を進め、混雑等によるストレス軽減のための平準化などの取組みを図ろうとしています。観光動向の全てをコントロールできるものではありませんので、大変難しい課題ですが、回遊性を高める、複数箇所立ち寄りを促す、時間、場所、時期などの分散化・平準化を図る(加えて戦略の各所で述べていますが高単価・高付加価値化も混雑緩和に寄与するかと考えま)ことは、現状の本町通りへの一極集中を緩和させる取組みになるのではないかと考えま。すべての解決には至らないかも知れま。少しずつ取組みを進め改善に繋げていけたらと考えるのでご理解いただければと思いま。

○いただいた意見・提案 <37>

観光戦略(案)P70「取組みの方向性について」の内容について「また、夜間に滞在しても楽しめるコンテンツづくりや飲食店等の充実」としていますが、どの地域で実施を検討しているのかはわかりま。観光で迷惑を被っている城下町住民としては、その施策が結果において城下町まで広がらないか心配しており、施策の再検討と本文削除をお願いします。

ご意見ありがとうございます。本市観光が産業として成長するために、日帰り観光から滞在宿泊型の観光の比率を上げていくことが重要であると考えていま。

観光がもたらす恩恵もある一方で、住民の皆さんの生活に支障を来している状況があります。産業として成長することで恩恵の部分をもり高め、少しでも観光への参画と理解を深める必要があると考えま。

そうしたことから、P69の方針別の施策『7-1 滞在・体験型観光』では、夜間に滞在しても楽しめるコンテンツづくりや飲食店等の充実及び宿泊施設の充実を図るために、チャレンジする施策「ナイトタイムエコノミーの充実(イベント、飲食店、イルミネーション、ライトアップなど)」を進め、犬山市での滞在・宿泊を伸ばしていきたいと考えていま。一例として、P56の重点プロジェクト『遊園ルネサンス』では、宿泊施設がいくつか立地する内田地区の木曾川河畔を整備し、高質化を図ることで魅力を高めていきたいと考えていま。また、犬山駅・犬山遊園駅を「駅周辺にぎわいゾーン」として、周辺の賑わいづくり(飲食店の充実など)を図りたいと考えま。ただし、新規出店等については民間事業者による営利活動となるため、市がどこまで関与(もしくは誘導・規制)できるか、その範囲は限定的になるものと考えま。良い意味で未来構想図のゾーンごとに特徴を出していけたらと思いま。

本町通り(及び城下町地区)は、一大商業地であったという歴史はありますが、今後、地域住民の方がどのようなまちづくりをしていきたいか、どのようなまちでありたいかを、住民の方同士の対話により方向性を取り決めた上で進めて行くものと考えていま。

○いただいた意見・提案 <38>

・計画の策定体では、(P3)コロナ感染症拡大により「観光まちづくり会議」の開催は途中で中止になり市民等からの意見吸収も中途半端になってしまいました。本体の「犬山市観光戦略会議」には観光化されている城下町住民は委員に選出されておらず、城下町住民の生の声を直接委員会に反映できているのでしょうか疑問が残ります。

ご指摘の通り、観光まちづくり会議は令和元年に実施した後に、コロナの影響で令和2年度は開催することができませんでした。ただし、令和元年度に6回開催させていただき、約140名の参加を得て貴重な意見提案を頂戴することができました。参加された方には大変感謝しており、観光戦略策定においては非常に有意義な機会とさせていただきます。加えて令和3年度になり、あらかじめ日時を決め、大人数の方に参画いただく従来の方法は依然として困難であると考え、少人数(1~5名程度)の対話の場(井戸端会議と呼びました)を設け、意見交換や共有をさせていただきました。そこでは、城下町地区の住民の方、城下町店舗の方をはじめとして、宿泊事業者、入鹿池貸ボート組合など、観光に関わる方との情報共有や対話をさせていただきました。なお一般的な話ですが、市の会議に住民代表として、町内会長に参加していただくケースはありませんがその場合、多くは町会長会連合会の会長にお願いすることがあります。今回の観光戦略会議ではその形ではなく、先に述べましたまちづくり会議を開き、町内会長も含む住民や事業者の方からの直接の意見交換、対話の機会を設けるという進め方で実施させていただきました(なお、城下町地区の町内会長さんを委員となっただくことについては、城下町にも10以上の町内があり選出が難しいと考えます。また観光に関する議論をする場合、城下町地区以外も関わりがある町内も少なからずありますので、城下町町内会長を委員となっただくことが難しいことをご理解くださいますようお願いいたします。)

もちろん、まちづくり会議はご指摘のとおり議論や対話が十分であったとは言えませんが、一番重要なのは、策定以降、それぞれの課題に取り組む際に関係者が集い対話する機会と場の設定であると考えます。このため、地域の実情に応じ引き続き何らかの形でまちづくり会議は進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <39>

・観光を切り口した課題の解決 (P2)

城下町を中心とした観光が住民に及ぼした影響を指摘していますが、「それなら課題解決のためにどうしていいのか」が検討されているような記載が見当たりません。このような問題が今回「分かった」ということではないですね。

観光振興により、城下町をはじめとする地域住民の皆さんの生活に影響を与えるという課題も顕在化しています。こうした状況から少しでも改善に繋がるよう、戦略を具体的に推進していく中でも地域住民、市業者、関係団体等、関係する方々との対話を繰り返しながら課題解決に向けて取り組んでいくべきと認識しています。戦略でもそうした対話による改善を随所に記載させていただきました。

よって、ご指摘のとおり本戦略を策定したことにより解決したのではなく、繰り返しになりますが、これから少しでも改善するための切り口として、今後地域住民の皆さん、事業者、まちづくり団体等と一緒に対話・連携し、観光戦略の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○いただいた意見・提案 <40>

・次の□囲みは2017年に私が「城下町の観光化の問題点」について問い合わせしたものです。行政側からは、「○○様がおっしゃるとおり抜本的な対策には至らず、時間もかかると思いますが、今後も関係者と連携、調整しながら進めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。」とご返事をいただいておりますが、この時から相当時間たっていますがどこまで進んだのでしょうか。この内容について具体的な対応策として計画のなかに記載は必要ではないでしょうか。このメールから5年、それ以前より問題を抱えています。これまでの経緯をまずは総括し、城下町の住民も他の犬山市民と同じように安全安心で豊かな暮らしができるようにさせて欲しいと切に願います。

2017/05/02 火 16:18

日ごろは、犬山市政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。この度は貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございます。現在市では、春と秋の観光シーズンに犬山城下町の本町通りで歩行者優先道路を実施していることから、交通誘導警備員を配置して地域住民と観光客の安全確保に努めています。今回いただきましたご意見については、行政としてはまずは行列ができていない店舗に対し、店舗側で交通整理（お客様の安全対策）などをおこなっていただくよう働きかけています。

○○様がおっしゃるとおり抜本的な対策には至らず、時間もかかると思いますが、今後も関係者と連携、調整しながら進めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。今後も犬山の観光にご理解ご協力賜りますようお願いいたします。

犬山市観光交流課

城下町地区、取り分け本町通りにお住まいの方には来訪客が多く訪れることで日常生活に支障が生じており、大変心苦しく感じております。

市がどのような対応をしてきたかについて、2017年に市からお話をさせていただいた後も、春秋の行楽時期などをはじめとして多くの来訪がある時期には、引き続き警備員を配置し渋滞や混雑緩和に努めてまいりました。観光駐車場の整備も行い少しでも改善するような取組みを進めております。また、観光まちづくり会議での住民の方の意見も踏まえ、歩行者優先道路は一定の役割を終えたこと、住民の皆さんにとってむしろ生活のしづらさが増しているのご意見を受けたことから、取りやめといたしました。しかしながら、こうした取組みは継続して実施しているものの、根本的な解決には至りません（これらの課題については、P21観光振興の歴史的な経緯のうち平成期に記載するなど戦略の中でも課題として取りまとめ、記載しております）。

しかしながら、城下町の住民の皆さん、店舗などの事業者さん、まちづくり団体の方等と対話をさせていただく中で、この課題の根本にあるのは、「そこに住む住民の方がどのようなまちにしたいか、どのようなまちにするべきか」を住民の方同士が話し合い、そのために必要なことを取り決め、行動することではないかと考えます。その上で事業者等も参画したまちづくりを進めることと考えます。犬山城下町は本町通りをはじめ一大商業地でした。城下町以外の住民（観光課にもおりますが）の中には、本町等に非常に憧れ、羨望の思いをしていた者もあり、そのことを思い出します。そのころ本町通りの多くは店舗でした。今はお店をやめられ、住宅となったところもあります。こうした時代の変化を踏まえ、今後どうしていくべきかを、今、話し合うべきときではないかと考えます。この課題が少しでも改善に進むには、対応策としてこうした「対話」こそが重要と考え、戦略には対話の必要性を記載させていただきました。皆さんが話し合うためのお手伝いはもちろんさせていただきたく考えており、今後そうした場と機会を設け一緒に考えていきたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

日本モンキーセンターの大ファンとしての意見を書かせていただきます。

日本モンキーセンターは近い将来経営が立ちゆかなくなり閉園してしまうのではないかと、そんな心配が頭から離れないほど経営は危機的状況です。

どうか、城下町から日本モンキーセンターへの市内観光循環バスを通してください。また、モンキーセンターを市営にすることも視野に入れていただきたいです。

現在、城下町観光はかなり発展しています。しかし、市内観光循環バスがないため、すぐ近くに世界でも稀有な存在のモンキーセンターに足を向けるハードルが高くなっています。猿しかいない動物園なんですよ。そんな声をよく聞きます。しかし同時に、行ってみたらすごく楽しかったという声もよく聞きます。つまり、市内観光循環バスがあれば、ちょっと行ってみようかという気持ちになると思うのです。

今回の観光戦略案にも記載されているとおり、日本モンキーセンターは、「世界屈指のサル類動物園」です。そして、「世界でも稀有な施設」です。その通りだと思うのです。犬山市が日本モンキーセンターをそのように観光の強みととらえておられ、本当にうれしいです。

一方で、マスコミでも取り上げられるように、現在、日本モンキーセンターは、長引くコロナウイルスの影響で入場料収入が減り、エサの確保のためクラウドファンディングを募ったり、企業や個人からの飼料寄付、Amazon欲しいものリスト、中古でもいいから欲しいものリスト、などによる寄付により、センターを愛する多くの企業やファンに助けられている状況です。

このままでは、これまで世界でも霊長類学をリードしてきた、日本が誇るべきセンターが、近い将来本当に閉園するのでは、と本気で心配しています。

国内に珍しく学芸員のいる動物園博物館は、亡くなった個体は必ず骨格標本や液浸標本などにしておき、霊長類の標本をあれだけ所蔵しているのは世界でも他にあまりないそうです。標本を元にした研究により、新たに判明する事実を発表したり、国内外の霊長類学者にとってはなくてはならない場所です。

犬山市の小学生にとっても、理科の授業でセンターの学芸員さんを招いて授業をしたり、センターへ赴いて課外授業をしたりと、ハイレベルな霊長類学・人類学に生で触れることができる場所です。

当然、私のような隣市の者でも、小さいころから慣れ親しんだ動物園博物館はなくなってほしくありません。

どうか、観光地として足を運びやすいように、市内観光循環バスを通すこと、市営にするのも検討していただくことを要望いたします。

そして現在は、若手の飼育員さんが、楽しみながら霊長類を知ってもらおうと、夏には恒例のイベントとなった「甲子猿」・YouTube配信・SNSでの発信・会員限定のオンラインサロン「猿分補給」を運営し、これまでのファンだけでなく、全国にコアでニッチなファンを多く獲得しています。

私も、小学生のころに行って以降ほとんど行ってなかったです。しかし35歳の時に久しぶりに行ったとき、霊長類とセンターの魅力に憑りつかれ、今では月に最低3回は通ってます。子供よりむしろ大人が楽しめる場所だと思っています。学芸員や外部の研究者のお話を入場料のみで聴講でき、いろんな種類の霊長類を見ることができ、とにかく知的好奇心をくすぐられる場所です。国内で、もうここでしか観られない種もたくさんいるのです。そんな犬山市の財産をなくしてはいけないと思うのです。

日本モンキーセンターに関する熱心なご意見・ご提案をいただきありがとうございます。

ご指摘の観光循環バスについては、残念ながら現時点で運行は予定しておりません。また、市営の施設とする計画もございません。移動手段としては、民間バス会社(岐阜バス)が犬山駅東口から運行しておりますので、そちらをご案内することとしております。ただし、観光戦略では市内循環の為の移動手段の検討が必要であるとしており、今後の課題と捉えてまいります。

今回、パブリックコメントでご意見を募集したところ、同センターに関するコメントを複数頂戴し、そのどれもが同センターに対する愛情と愛着を感じるものでした。大変嬉しく、ありがたく思います。

犬山市観光戦略にも記載していますが、同センターは犬山が誇る「世界屈指のサル類動物園」であり、「世界でも稀有な施設」です。地元の子供たちは遠足や課外学習で同センターを訪れ本物を見て霊長類を学びます。幼少期にこうした施設で学びの機会が得られることは市にとって大きな財産だと考えます。ご意見のとおり子どもだけでなく大人も実際に訪れると、種の豊富さ、見どころの多さに驚かされ発見があります。最近はお飼育員さん等によるTwitterをはじめとするSNSでの発信も非常に興味深く市内外の多くの方を楽しませていただいております。一方、同センターはこれまでも本市の貴重な観光資源でしたが、そのポテンシャルどおりに観光としての利活用が十分に果たせていない、とも感じています。国内外の観光客に認知され楽しんで頂けるよう、また市民にもこれまで以上に愛着を持っていただけるよう、あらためて市観光部局としても取り組みを進めていかなければ、と考えています。

具体的には観光戦略でターゲット設定している、「若者やファミリー」には「城下町+1」を進めていきたいと考えています。これは城下町を訪問する方にもう一箇所立ち寄りいただきたいと考え、そのための仕組みを構築しようとするものです。少しずつですが、城下町と同センターを繋げるため工夫していきたいと考えます。加えて、ターゲット設定「特定の目的がある旅行者」に対しては「特別な体験コンテンツの提供」を進めています。例えば令和元年度にはシェアリングエコノミーの仕組み(ainiというインターネットのツアーサイトによるものです)を活用した体験ツアー「モンキーセンター現役事務員と行く！飼育員たちと出会える動物園満喫ツアー」等を(市も少しだけお手伝いさせていただき)開催していただくなど、様々な取り組みを実施されています。

こうした取り組み等を通じてこれからも同センターの認知と魅力を高めていけたらと考えております。ご提案、ありがとうございました。